

---

# 創立八十周年によせて



## お祝いのことば

衆議院議員・元文部大臣  
社団法人全国経理学校協会会長

坂田 道太

村田学園が、明治・大正・昭和そして平成と四代にわたり、産業教育に輝かしい足跡を残され、ことし創立八十周年を迎えられたことを、心からお慶び申し上げます。

明治四十二年十一月に、村田学園の母体となった「銀行会社事務員養成所」がうぶ声を上げました。同養成所は「村田簿記学校」となり、その後併設された「村田女子計理学校」は「村田女子商業高校」と、それぞれ発展・拡大の道を歩まれてきました。私は、昭和四十四年十月、文部大臣時代に創立六十周年の記念式典において、祝辞を述べさせていただいたことを想い出します。それから、はや二十年が経ち、ここに創立八十周年を迎えられることになりました。

一口に八十年とはいえ、それは人間の一生の歳月にあたります。村田学園八十年の歴史には、人生と同じように、喜びと悲しみを織り込んで綴られた星霜と、その間に培われた伝統の重みが息づいています。

大正十二年に起こった関東大震災で校舎を焼失、そして過ぐる大戦では、再び校舎を戦火で焼かれてしまいました。それにもめげず、創立者村田謙造先生が陣頭に立たれ、教職員、生徒のみなさまが力を合わせて戦禍から立ち直られ、立派な新校舎を建設されるとともに教育内容の充実をはかってこられました。

とくに村田学園は、創立以来、一貫して産業教育に力をそがれ、実業教育に多くの成果を挙げられ、私学教育界で特色のある学校として光彩を放っておられます。

さらに、この村田学園から巣だたれた方々は実社会で大いに活躍され、また、よき家庭婦人として世の多くの人びとから称賛をうけておられます。

これらのことを考えるとき、創立者・村田謙造先生が「国家社会の発展には簿記・珠算の実務に通じた堅実な人物を育てなければならぬ。簿記は国民の一般常識として、ひとしく必ずどこかで学ぶ必要がある」という信念のもとに、永年にわたって、熱情あふるる教育活動が続けられてきたことを忘れるわけにはまいりません。

また、現在の学園理事長・村田照子先生は、謙造先生の信念をうけつがれ「個性をのばし、健康明朗な女性の育成。実務の知識・技能の練磨と社会での責任を果たす人格の形成。家庭婦人にふさわしい教養・特性の涵養」を教育方針として、自ら教壇に立たれて授業をされておられるときいております。

こうした、親娘二代にわたる産業教育・女子商業教育の振興にかけられた熱意と、それをしかと胸にうけとめて日々の教育にたずさわっておられる教職員のご努力が、今日の村田学園の発展につながっていることは、申すまでもありません。

わが国は、いまや押しも押されもせぬ経済大国となり、一方、経済産業界の求める人材も国民の意識も多様化してきました。このため、経済進展の推進力となる中堅産業人の育成と、私学がもつ特徴のある学校教育の拡充・発展が、ますます重要になっています。こうしたなかで、特色ある実業教育に輝く伝統をもつ村田学園の役割と、その発展に期待する声がいっそう高まっていることは当然といえます。

村田理事長先生を中心に、教職員・生徒の皆さまが、創立八十周年を機に、さらに一致協力され、これからも建学の精神にもとづいて、その特色をおおいに発揮され、村田学園がますますご発展されることを祈り、お祝いのことばといたします。



## 創立八十周年を祝す

東京都知事

鈴木 俊一

学校法人村田学園がめでたく創立八十周年を迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。

皆様の学園は、明治・大正・昭和、そして平成へと、長い道のりを歩んでこられました。

創立者の村田謙造先生は、国をあげて重工業の育成に力を入れている明治四十二年に、「簿記は、すべての国民が、常識として、きちんと学んでおくべきである」という確固たる教育理念と「二つの言葉と、五つの教え」のもとに、「銀行会社事務員養成所」を設立されたと伺っております。

その後、関東大震災や戦災により校舎は灰塵と歸し、また、教育制度の改革など、社会の大きな変革に遭遇されましたが、それらをみごとに克服してこられました。

貴学園は、個性の伸長、実務の研鑽、豊かな教養と品位の育みを教育方針に掲げ、経理教育と女子教育にあたられ、今日までに三十万人を超える卒業生が、社会で活躍されております。

今日の隆盛は、ひとえに現理事長・校長先生のもと、諸先生、学園の関係者が一丸となって、建学の精神を継承し、「古くて新しいテーマⅡ簿記」の教育に情熱を持って取り組んでこられた賜にほかなりません。深く敬意を表する次第です。



ご承知のように、学校教育は、今日、国際化・情報化など、社会の急激な変化にと  
もなう教育改革をはじめ、生徒数の急減にともなう教育の質的向上等々、様々な課題  
に直面しております。

貴学園が、これまでの輝かしい実績と伝統のもとに、こうした課題を乗り越えて、  
常に時代の先頭に立って、新しい世界をきり開いていって欲しいと心から願っており  
ます。

## 祝 辞

千代田区長

木村 茂

村田学園は、「教育と文化のまち千代田区宣言」を謳う本区の誇りであり、心より  
創立八十周年をお祝い申し上げます。

村田学園は、正に、明治・大正・昭和・平成の四代にわたり、日本の近代化・国際  
化に歩みをあわせてきた、また、その牽引車となってきました。

昭和四十八年七月、私の都議初当選のご挨拶に、現理事長のご尊父、村田謙造先生  
を学校にお訪ねしたときのこと、——理事長室の正面に、大きな四つ玉の算盤（そろ  
ばん）が飾られていました。先生のお話は佳境に入り、「徳川時代から使われていた  
五つ玉の算盤は、どうみても下一列の玉は全然役に立っていない。私は、思い切って  
これはずしてみた。全体の寸をつめる。軽くなる。能率もよくなった。大英断でし  
た。当時、学校・会社、特に国鉄・私鉄の切符売り窓口が競って採用、またたく間に



療原の火の如しです。計算方式、会計事務が迅速・簡便——、やっと、国家のために  
ご奉公できたと涙が流れました。その感激がこの老骨を支えているのです」と、その  
感慨にひたられたお姿が、今も鮮烈に残っています。

想えば、今日の科学技術の振興、経済大国の裾野の拡がりに、先生はどんなに貢献  
されたことか——。

その父君のご遺志を継がれる村田照子理事長は、政治と教育の世界は違うが、鉄の  
宰相サツチャーにも似た「熱血の人」。いつも、「学歴社会は終わり、資格社会こそ、  
これからの世の中の発展を支える」と喝破されます。

また、先生は、「生徒さんが、先ず自分の椅子にしっかりと落ち着いてもらう。その  
雰囲気を教室内につくることからウチの授業ははじめるのよ」と仰る。その女性らしい  
気配り、思いやり、それが各種資格試験の合格率を高めている出発点になっているの  
かもしれません。

とにかく、私の都議四期十六年間、先生は私学振興についての偉大なご指南役でし  
た。学園百年祭に向けて、先生のご健勝と学園のご隆昌を祈って止みません。

## 村田学園のさらなる発展を

東京都総務局・学事部長

瀬田 悌三郎

学校法人村田学園創立八十周年おめでとうございます。

貴学園は、明治四十二年、村田謙造先生が簿記の重要性に着目し、『有算者勝』の信念のもとに神田一ツ橋に創立した「銀行会社事務員養成所」が前身であります。

また、女子教育に並々ならぬ意欲と信念をもっておられた創立者は、昭和六年、実務の知識・技能と合わせて、女性としての教養と品位を育てることを教育の基本理念とした、「村田女子計理学校」を設立しております。

この両校は、村田学園の源流として、明治・大正・昭和・平成の激動の時代を滔々と流れ、大河となって今日の発展・隆盛をみております。

しかしながら、八十年におよぶ星霜には、関東大震災、戦災による校舎焼失等々、幾多の苦難のページもあったことと察します。

戦後の教育改革により、いち早く学校法人化した貴学園は、生徒数が飛躍的に増大をし、また、学生の街、神田神保町を中心として、つぎつぎに新校舎を新設するなど、施設・設備の整備・充実に力を注いでくれました。

教育面においても、常に時代を先取りし、単なるスペシャリストの養成にとどまらず、幅広い人間性をもった国際社会においても通用する人材の育成に努めておられます。村田学園から巣立った卒業生は約三十万人におよび、国内外を問わず、あらゆる分野において活躍されております。

貴学園の今日の隆盛は、創立者の建学の精神を受け継ぎ、不撓不屈の精神で歩んできた現理事長・校長村田照子先生の下に、教職員をはじめとする学校関係者が、一丸となって努力してきた賜であり、深く敬意を表する次第であります。

東京の私学は、今後、生徒急減期を控え、一段と厳しい状況が予想されます。これまで以上に経営努力と教育内容の充実・創意工夫が求められます。

どうか、村田学園におかれましては、この八十周年という大きな節目を、さらなる



## 祝辞

発展へのスタート台として、これまでの輝かしい実績と伝統のもとに、時代の要請に応えた教育を目指し、より一層飛躍されますことを、心から祈念いたします。

千代田区教育委員会委員長  
株式会社龍角散社長

藤井 康男

このたび創立八十周年を迎えられることはまことに慶賀にたえないが、これは実に変なことである。どちらかといえば地味な専門技術の教育をこれだけ続けられたということは、有形無形に社会にどれだけの貢献をされたか、計り知れぬものがある。門外者として細かいことは存じ上げないが、今年表を拝見し、創立者が四つ玉の創始者であったことを確認し、あらためて感じ入っている。（そろばんは、現存する唯一のアナログ計算器で、日本が世界に誇るべきものと考えていた。）この事は、確かに全珠連の役員の方も知らない筈である。四つ玉の出現はそろばんの究極の合理化で、実に歴史に残る事業といわなければならない。

個人的なお話で申しわけないが、現校長の村田照子様は、千代田区教育委員としては私の大先輩であり、現在私が心の底から尊敬できる数少ない女性のお一人である。お眼にかかることばかり申し上げているが、この方こそ本当のキャリア・ウーマン（この言葉は実は私はあまり好かない。優女と申し上げるべきか）であると感じている。ある歓談の席で、酒もつだい「エリザベス・サッチャー・タイガー村田」というあだ名をさし上げた。すると先生は「藤井さん、私の学校の金庫に龍角散がし

まっであるのよ。」とおっしゃった。はて妙なことを思っていたら「あのね、お金が出ていくのをセキとめるのよ。」と一本やられた。年賀状で「元旦や年はとっても美女は美女」とからかったら、すかさず返歌に「デートの誘いシワの数ほど」とまたやられてしまった。日本人はユーモアやジョークが下手である。これは特にインテリにおいていちじるしい。しかし、ユーモアは軟らかな豊かな頭脳でなければ生まれない。私が心ひそかに尊敬おくあたわざる点なのである。このような方がおられる限り、今後の発展は間違いない。更なる発展と百周年への期待をこめてメッセージを送らせていただきます。

## 祝 辞

全国商業高等学校協会顧問

今村 直人

村田学園におかれましては、創立八十年を迎えられ、誠に御慶びに堪えません。永い歳月に亘り、我が国産業の発展、文化向上に寄与なされました偉大なる功績に、最高の尊敬を御捧げ申し上げます。理事長先生は、全国商業高等学校校長協会の副理事長としても、我が国商業教育の振興に御尽力になっておられますが、先生の教育に対します強き信念と、生徒に対します教育愛の深さには、心から敬服の念を禁じ得ません。貴学園の創立八十年の極めて意義深い記念すべき日に、将来一層校運の御隆盛と、理事長先生の御健勝を衷心から御祈り上げて止みません。

理事長先生の御尊父様も、実に尊敬すべき偉大なる教育者であらせられました。



## 専修学校の歴史とともに

東京都専修学校各種学校協会会長  
学校法人 文化学園理事長

大 沼 淳

村田学園が創立八十周年を迎えられたことに心から敬意を表し、お祝い申し上げます。村田簿記学校は、明治・大正・昭和を通じて、常に簿記会計教育界で指導的役割を果たし、その中心的存在であったことに、畏敬の念をいだかずにはおれません。

各種学校制度の時代、そして、専修学校制度の時代を問わず、村田簿記学校の名は全国に聞こえ、常に代表校的存在であった八十年の歴史は偉大であったと思います。

これはひとえに、創立者であり、斬界の指導者であられた故村田謙造先生と、その後継者として一層の発展に導かれた現校長の村田照子先生の教育に対する深い情熱と先見性もたらしたものであることは、いうまでもありません。私も昭和三十三年、各種学校教育界にその一員として参画するようになり、当時既に大先輩として君臨していらした村田謙造先生に、親しくご指導を受けました。東京都の私学審議会委員の職も、初代委員だった先生からバトンタッチされたもので、今でも感謝の念でいっぱいでございます。専修学校教育界にとりましても、戦後いち早く各種学校教育の復興をはかるべく、村田謙造先生は、ドレス・メーカー女学院の杉野繁一先生、文化服装学院の遠藤政次郎先生と共に、三大御所として今日の基礎を築かれたのです。その世代からバトンタッチを受けた私達は、村田照子先生とともにその路線を引き継ぎ、復興を進めるべく専修学校制度を創設し、一層の進展をはかったことも、この輝かし



い村田学園八十年の歴史に根ざしているものが大きくあると思います。特に村田照子先生が高等専修学校教育にも目をむけられ、自ら経理高等課程を併設され、都民教育の信頼を高められたことに対しては、頭の下がる思いがいたします。

村田学園八十年の歴史は、いわば各種学校、専修学校の歴史でもあるわけで、そのことに心から敬意を表し、お祝いの言葉とします。

## 村田学園創立八十周年を祝って

日本私立中学高等学校連合会理事長  
学校法人 堀越学園理事長

堀越 克明

村田学園創立八十周年を心からおよろこび申し上げます。

貴学園は、創立者村田謙造先生が、明治四十二年に母体である「銀行会社事務員養成所」を、高い理想と先見的教育理念に基づいて創立されて以来戦争の混乱、数々のご労苦を乗り越えられて、今日のおよろこびの日を迎えられました。特に、現在の理事長・校長であられる村田照子先生のご感慨は、一入のことと拝察いたします。

ご創立の明治四十年代初期のわが国は、前代の封建的遺風から脱して、近代西洋文化を摂取することから、長い鎖国による後進性の挽回に社会全体が大きく動いた頃で、邦文タイプライター、自動車の実用化が始まり、女学生にリボンが流行したり、自然主義文学全盛の時代でもありました。

何事によらず、新たなものの創始創設、踏み出しというものは大変難しいものです。明治四十一年に、村田式計算器の開発、翌四十二年には、貴学園の母体を設立さ



れ、創立者であられる村田謙造先生は、正に「此後に来る者のためには、彫心鏤骨の苦しみも厭わず」のお覚悟・ご心境であったと推察申し上げ、改めて、その偉大さに敬意を捧げるものでございます。

昭和五十年からは、村田照子先生が理事長にご就任になり、学園創業時代からの、有形無形の新鮮潑刺とした理念と、力強い脈動を受け継がれて、明治・大正・昭和、そして平成の四時代にわたり、益々のご発展を遂げておられます。

人の一生には多くの人々とのつながりがありますが、貴学園におかれましても、創立八十周年を迎えられるにあたり、連綿として絶えることのない幾多の同窓の方々の母校愛、また、現在学園に学ばれておられる多くの生徒の皆さん、後で支えておられるご父母各位、特に、村田学園の教育理念と伝統校風を、さらに、二十一世紀へ向けて発展具現させるために、村田照子先生を中心としてご精励の教職員の皆さまに、心からおよろこびを申し上げる次第です。

学園は、よき師、よき友、多くの人に感激希望を与える学びの園です。今後とも、わが国の私学教育振興・発展のために、一層の飛躍をとげられますよう祈念申し上げ、祝辞といたします。

## 祝 辞

元早稲田高等学校理事長・校長  
元洗足学園理事

飯 島 武

村田学園創立八十年を迎えられたことは、まことにおめでたいことである。学校の命は人間とは違い、人間は平均七・八十年の寿命を持って生まれてくるが、学校の命

は開校の翌年でも失うかもしれないし、永遠に続くには創立の精神が燃え盛るかどうかにある。

八十周年とは、八十回その真価を世に問うてきた結果である。創立の精神に感じ、共鳴して子女を託した父兄、実務を身につけたいと願う青年が、心身を美しく、賢く開いてくれた学園に対する喜びが、この八十年の歴史を綴っているのである。学園の中心には学園を支える同志の教職員の有ることをわすれてはならない。

創立者 村田謙造先生は、国家社会の発展には「簿記・珠算の実務を通じた堅実な人物を育てなくてはならぬ」という大方針をうちたてられて、明治四十二年より幕地に進まれている。

それは、鬼神も避く強さを持っていた。東京都内の新聞紙の広告に「斯界の権威、村田簿記学校 創立四十二年」とあるをみても、萬人何人も不思議と思わず、当然のこととこれを喜ばしげに認めていた。

私事になるが、私の長男が入社間もないある日、重役に廊下で出会い、君は簿記はできるかねといわれた。大学で法律は学んだが簿記は知らなかったたので、直ちに村田簿記学校に入学させていただき、今、経理部で職責を果たしている。村田簿記学校の権威は、実業界に戦力を加え、日本の豊かさを産んだ高度成長にも大きく貢献していることは間違いない。神保町校舎、市川校舎、ワン・イレブン館、独立の女子商業高校としての誇りを堅持している小石川校舎の盛況をみればその証しになる。

現在は算盤は四つ玉であるのは普通であるが、村田謙造先生が初めて明治四十一年に四つ玉算盤を提唱された。きわめて斬新なことであった。文部省は、理数科教育の立場から、昭和十四年に四つ玉算盤の学校教育への採用を決定した。これも、先生の実践の結果であろう。



村田謙造先生と御一緒に私学審議会委員を務めた時、先生は各種学校の代表であっても、御判断はつねに大所高所から私学全体をみて、適切なまっすぐな意見を、あの目鏡越しの慧眼で、しゃんとした姿勢とやや高い声の調子で述べられた印象が強く残っている。

私学全体のためになると思えば、私学の経営者協会や学校法人維持基金財団等の新しい設立企画に対しても理解を示し、積極的に賛成されたことは深く感謝している。村田謙造先生こそ私学人中の私学人というべきである。

## 苦難と栄光の八十年

村田簿記学校校友会会長  
井上・斉藤監査法人統括代表社員

齋藤 力夫

平成元年の新しい時代に村田学園創立八十周年を迎え、感慨無量であります。

私は、村田学園の今日の隆盛は決して順調な経緯を経たものではないと考えます。

明治四十二年、村田謙造先生が唯一人で商業と珠算の教育事業を創設して以来、村田簿記学校および村田女子商業高等学校の現在の発展にいたるには、多数の苦難の道を辿ってきたのであります。大正十二年の関東大震災による校舎焼失の打撃、さらには、昭和二十年の第二次世界大戦による神田校舎と文京校舎の焼失によって、皆無に帰した状況から、不屈の精神をもって、その再建に校長先生以下教職員の先生方が、力をあわせて乗り越えてきた成果の賜物であります。

昭和五十年三月、創始者村田謙造先生が、八十八歳で逝去されました。先生の人生は、まさに、明治・大正・昭和の三代にわたって、産業教育の基盤になる商学をわが国に普及するための戦いの連続でした。そして数多くの有能な人材を実業界に輩出してきました。

現理事長村田照子先生は、創始者の築いた基盤をもとに、学園の第二期発展と充実をはかるために、全身の力をこめて邁進してこられました。昭和五十八年、村田簿記学校専門課程の充実をはかるほか、新たに経理高等課程を開学し、中学校卒業生に対し、職業教育を通して社会に貢献する道を開くとともに、同六十年卒業生の大学入学資格の文部大臣指定校を得るにいたしました。同時に併行して、昭和五十九年十一月、西船橋に近い市川校舎を落成、同地に総合体育館、グラウンドを建設し、まさに教育のあらゆる環境が整備した総合学園が実現したのであります。この市川校舎の用地取得から建設にいたるまでには、十年の歳月を要したのであります。

平成元年は、十五歳就学人口は二〇五万人に達し、以後急速に下降し、一三〇万人まで落ち込みます。これと連動して、平成四年は十八歳就学人口がピーク時となります。将来の私学の存続の曲り角にきています。

このような時期に備えて、村田学園は、村田理事長を中心として着々と教育環境の整備をはかり、今日、八十周年記念を迎えることができました。今後の益々の発展を期待し、祝辞に代えさせて戴きます。



## 祝 辞

村田簿記学校経理高等課程後援会会長

大野 誠 治

平成元年の今年、八十周年の歴史を振り返ってみますと、明治から四代に亘って、膨大な時の流れに圧倒される思いがいたします。

四つ玉そろばんを考案された村田謙造先生が、国民の一般常識としてはじめられた簿記教育が、先生のお考え通りに一般化・常識化しました。

さらにまた、昭和五十八年よりスタートした高等課程での教育は、後期中等教育の担い手として社会から大きな評価を受けています。私どもの息子や娘も、高等課程での生活を送るうちに、不安な部分が補強され、あるいは取り除かれ、一步一步確実に頼もしく成長していき、親として感動の日々を迎えさせていただき、感謝にたえません。

私ども後援会として、お手伝いできることは何なのかを改めて考えなければならぬと思います。

今後さらなる学園の充実と発展を心より祈念いたしております。



## 創立八十周年を祝して

村田女子商業高等学校後援会  
昭和五十三年度会長

戸ヶ崎 昌俊

「国の内外にも、天地にも平和が達成される……」という意味をもつ新元号「平成」。  
しかも、この新元号の元年に村田学園が創立八十周年を迎えることは、誠に同慶の至りに存じます。また、この八十周年にちなみ、記念事業の一環として記念誌を編集され、数々の学園の歴史を収録されることは、誠に有意義なことで存じます。立派な史誌の完成を祈ってやみません。

国立校・公立校・私立校を問わず、学校にはそれぞれ学校なりの教育理念をもって運営されていると存じます。まして私立校の場合は、創立者の強い教育信念によって設立され、それが代々引き継がれております。わが村田簿記学校・村田女子商業高等学校にあっても、創立者村田謙造先生から村田照子先生に、教育信念はもろろのこゝと、教育に対する情熱と愛情についても引き継がれて来ているものと存じます。

明治四十一年、村田謙造先生は、現在では何の違和感もたれない「四つ玉算盤」を発表されたのに引き続き、明治四十二年には、いち早く簿記・会計に関する教育のために、簿記学校の母体となった『銀行会社事務員養成所』を創設されたことは、今日から見ますと、誠に偉大な先駆者として大いに賞賛に値すると存じます。それからの八十年という道程は容易なことではなかったものと推察申し上げます。

現在の後継者・村田照子先生が、理事長として、また学校長として、両校の教育に

注ぐ熱情のみならず、広く教育界のために尽力しておられることを聞くにつけ、頭が下がる思いがいたします。また、長年にわたり両先生を助けてこられた両校の教職員の方々が、日々の教育の実践を通して教育理念実現のための重責を果たされ、今日の成果をあげてこられたことに、深く敬意を表するものでございます。

村田女子商業高等学校・村田簿記学校の両校では、私の二人の娘が薫陶をいただきましたが、娘が村田女子商業高等学校に入学したのを契機に、それもほんの一部かもしれませんが、同校の教育理念に接することができました。それらを見聞きするにつけ、娘がこのような学校へ進学することが出来たことは、誠に幸いであつたと思つたものでした。

「簿記・会計に関する基礎知識と実務は、総ての国民が常識として知っておくべきである——」

これなども、同校が建学以来主張しておられる教育方針とお聞きしましたが、長年企業内に身をおいておりました私が、折にふれ口にした言葉と基本的に一致するものであり、その点、特に共感を覚えたものです。

最近、テレビ・ラジオをはじめ、新聞紙上あるいは書籍等で多く見聞きするようになった言葉に、「生涯教育」あるいは「生涯学習」という言葉がございます。世は飽食の時代といわれるように、物質的生活に不満を訴える人は少なくなっているといわれております。それに引き換え、精神的な生活（物質的生活という言葉同様、この言葉も適切かどうか疑問ですが）に不満を訴える人が多いといわれております。精神的な生活に不満があるからこそ、そのような不満を埋めるべく、生涯教育理念が提唱されたといえます。

この理念がいつごろから提唱されたのか、また活動化されたのか確かな記憶はござ

いませんが、「生涯教育」の言葉を私が最初に目にしたのは、たぶん十数年前、書店の店頭で「生涯教育」という小冊子ではなかったかと思います。

この活動も順次盛り上がりを見せてまいりましたし、今後ますます活発化するものと思われれます。それを裏付けるかのように、七月十二日付けの新聞は、「文部省は、国と地域の生涯学習活動を推進するため、生涯学習計画策定への助言などしてもらう——生涯学習クリエイティブアドバイザー——制度を設けることを決めた……云々」と報じております。

「生涯教育」「生涯学習」とは、いかなる教育・活動なのか、日本での提唱者と思われる某大学教授によりますと、

「学校での勉強は間接経験（知識）が大部分であつたから、卒業したら直接経験（事実）から学ばなければならない。しかし、経験から学べる人と学べない人がいる。一流の人物は直接経験から学んだ人である。となると、生涯学習の課題は、直接経験から学ぶ手助けをすることである……」

「生涯教育」という言葉を目にした頃と時を同じくして、生涯教育という言葉の原点とでもいえるような学説に巡り合いました。その学説を唱えた人は、世界の思想界、教育界に至大な影響をおよぼしたといわれている、米国の哲学者デューイです。彼の教育に対する革新的な理論は、私などにとりましては、この上もなく難解なものですが、その中に……

「教育の目的は、各人が自己の教育を継続できるようにすることにある……」  
という学説があります。彼は、心理を実際生活の中に経験によつて捕らえるという立場をとり、知識の社会性を重んじて、社会の進歩に寄与するように訓練することを教育の任務と考えました。社会の進歩は、永遠に進むものであるから、それに貢献する

ためには、それに後れず自分を向上させてゆかねばならない。しかし、人はそのために一生通学するわけにはいかないから、限られた学校教育では、学校を卒業しても継続的に自分自身を教育できるように、知性・理性を磨くことが重要目的の一つだ……というものであって、つまり、学校は終点ではなく始点なのである、というものです。

村田学園は、生涯学習の始点として自他ともに恥じない教育をしておられると確信しておりますが、私のさらにもう一つの願望は、村田学園の中に大学を併設できないであろうか……ということです。「大学設立」は並大抵のことではないことは、素人の私にも充分理解できますが、簿記学校を大学に昇格するもよし、歴史のある簿記学校は専門学校として残し、別に大学を設立するもよし、方法は別として、村田学園に大学を……という願望をもっております。

学園創立・八十周年の記念すべき日を迎えるにあたり、大学設立の願望をも含めて、学園の内外相呼応して、学園発展に貢献したいものと心を新たにいたしております。八十年という立派な年輪を重ねてこられた村田学園が、今後さらに百年、百五十年と年輪を重ねて、さらに立派な年輪をもった大樹に成長されることを祈念してやみません。

村田学園の今後益々の発展を願い、八十周年を心からお祝い申し上げます。



## 祝 辞

村田女子商業高等学校後援会会長

森 近 健

村田学園が創立八十周年を迎えるにあたり、心からお祝いを申し上げます。

十月には、村田学園としての記念式典を、武道館において盛大に挙行されるよし、このような時に、村田女子商業高等学校後援会の会長をお受けいたしておりますことは、誠に光栄であるとともに、幸運であると感謝しております。

本学園は、明治四十二年十一月初代校長・村田謙造先生により創立された村田簿記学校をもとに、商業教育の発展に貢献してきました。その学園も関東大震災並びに、戦災と再度にわたる校舎焼失にもかかわらず、「国家社会の発展には簿記珠算の実務に通じた堅実な人物を育てなければならない」という信念のもと、強い意志とたゆまぬ努力によって、今日の隆盛をみています。

私の長女が高校進学するにあたり、本校の入学案内に記されていた

一、生徒の個性を伸ばし、健康で明朗な女性を育てる

二、実務についての知識・技能をみがぐとともに、社会に出て責任を果たすことのできる人格をつちかう

三、女性としての教養を高め、将来の家庭人にふさわしい特性を養う  
という教育方針に接し、共鳴いたしました。



時代を先取りした教育設備、校長先生をはじめ、諸先生方の厳格な中にも慈愛に満ちたご指導により、よく躰けられ、身についたものが伝統となっています。社会に出た時、実力を発揮し、認められ、実績として、村田の出身なら何を任せても安心と高く評価されています。

教える側の「自信」と教わる側の「素直さ」がなければ、まともな教育の成果の期待は望めないことです。

村田学園が今後とも名門校としてあるためには、教師の「信念」と生徒の「節度」が何よりも大切であると信じます。

創立八十周年という記念すべき年を契機として、本校の益々の発展を心から祈念し、お祝いの言葉といたします。

## 創立八十周年を祝す

村田女子商業高等学校同窓会会長

南保 芙美子

創立八十周年、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。理事長をはじめ、関係者の皆様のおよろこびも、ひとしおのことと御推察申し上げます。

明治・大正・昭和・平成と四つの時代の中で、国の教育方針もその都度変化すること余儀なくされ、大変苦しい時代もあったかと想像されますが、一貫して経理分野における人材の養成に全力投球された村田学園の姿勢は、その業績とともに高く評価されるものです。そして、その卒業生の多くを一流企業に送り出し、その優秀な人材

に關係各方面より深く感謝されている村田学園は、日本の經濟を時代ごとに支えてきたといつても過言ではないと思います。私も、同窓生の一人として、この村田学園の素晴らしい發展に、心からのよろこびと誇らしさを感じております。

私が通學しておりました昭和二十八、九年頃は、校舎木造で、半分が平屋建てという、現在の学園の生徒には想像もできないものでした。あれから三十数年たった現在、建物および各設備の近代化は、もちろんのこと、各地に養成の場は広がり、益々その名声は各々の地域社会において鳴りひびいております。それも、照子理事長がご尊父謙造先生の遺志をお継ぎになり、次々と發展を屈指してこられた故だと思います。

本年十月、武道館におきまして盛大に式典が挙行されるとのお話ですが、亡き謙造先生も、さぞかし天国でよろこびであらうかと、そのお姿が目に浮かんでまいります。このよろこびを、次の九十周年、百周年と、継続して味わいたいと思いますので、私も頑張るつもりでおります。

最後に、村田学園の益々のご發展を祈願いたしまして、お祝いのことばとさせていただきます。